

## 「出題の意図」

選抜区分	2020年度 (選抜区分：推薦入試) 外国語学部 国際関係学科 (科目名：小論文)
出題の意図 (評価のポイント)	<p><b>1. 出題の背景・求める能力</b></p> <p><b>【出題の背景】</b> 小論文は、英文の資料1とそれに関連する和文の資料2の二つで構成される。資料1はChris Burgess ‘A Japanese multicultural society still far off’ (<i>East Asian Forum</i>, 13 October 2016)、資料2はブレイディみかこ『子どもたちの階級闘争—ブローケン・ブリテンの無料託児所から』(みすず書房、2017年)から、それぞれ一部を抜粋・変更して出題した。 昨今話題となっている「多文化共生」の問題は、国内社会と国際関係の双方に跨る課題である。この問題について、日本とイギリスがどのような課題を抱えているかを資料から読み取り、両者の違いを指摘する問いを課した。資料2は平易な日本語であるが、イギリスの課題について議論の本質を見極める力が問われる文章である。</p> <p><b>【求める能力】</b> 問1は、資料1の英文を日本語で要約する問題である。国際性を帯びた社会問題について英語で書かれた論説を読解し、その要点を整理するための論理的な思考力と表現力を試す問題である。議論がやや複雑になっているため、理解するには相応の英語力が必要となる。 問2は、二つの資料を基に、ダイヴァーシティ(文化的な多様性)が社会にもたらす課題について日英の違いを論じるように設問されていた。問の内容は平易であるが、答案の材料となる2つの資料を正しく読み取る読解力と、問に即した形にまとめる論理的思考力・表現力をみる問題である。</p> <p><b>2. 解法</b></p> <p>問1は、英語の読解力をみる問題である。資料1は、日本の移民政策と日本式の「多文化共生」の在り方と矛盾を突いた文章である。一見、複雑な印象を与えるが、丁寧に読み進めば論旨を掴むことはそれほど難しくはない。しかし答案の中には、資料には書かれていない、既知の情報に結びつけて解釈しようとして減点対象になったものや、否定表現を十分に理解できていない、あるいは否定の語を訳し忘れたと思われるものが散見された。特に、2ページ目の上から5～6行目と、3ページ目の上から14～15行目の誤訳が多かった。 最後の2段落については、正確に理解していた解答は少なかった。3ページ目の下から2行目のpriceを「代償」と読み取れずに直訳し、日本語の意味が通じない文章になっている答案も多かった。</p>

問2は、設問を熟読し、その意図を踏まえて回答する問題であり、自分の考えや意見を自由に述べる問題ではないことに十分留意してほしい。設問で問われているのは、「文化的な多様性」が社会にもたらす課題について、日本とイギリスの事例をまとめ、両者の違いを指摘することである。問題の指示に従い、二つの資料から回答となるポイントを抜き出してまとめ、両者の違いを正確かつ簡潔に、文章としてまとめる力を試した。資料1の英文（日本の事例）が正しく読み取れていないと、問2の答案も不正確になる。資料2（イギリスの事例）について表面的にしか参照していない答案もあった。

なお、主語と述語が対応していない文章や誤字・脱字は減点対象になる可能性があるため、十分に気をつけてほしい。また、指定された字数にはるかに満たない答案は、得点に結びつかない。

\*\*\*\*\*

### ▶受験生への情報提供

本学科の推薦入試対策のカギは3点です。

#### 1. 国際関係に対する関心を養う

国際関係を学ぼうとする学生には、普段の勉強や活動において国際ニュースや身近な国際関係についての関心を持つことが望まれます。

#### 2. 英語力

多様な国際社会で最もよく使われる言語は英語です。英語力を高めるには、高校までの履修内容をしっかり習得することが基本ですが、その応用力も必要です。インターネットや英字新聞を活用して語彙力を伸ばしたり、理解力を高めたりするように努めましょう。

#### 3. 国語力

小論文対策では国語力が重要になります。正しく読み取り、的確に表現できるように、日々の練習を積み重ねましょう。特に、短い試験時間では助詞（「てにをは」など）の使い方が曖昧になったり、論理の飛躍や矛盾が起こりがちですから、気をつけましょう。

努力の成果が表れるには時間がかかります。早めに準備を始めましょう。